

2023年3月の行事予定表

1	水		16	木	祈祷会
2	木	祈祷会(証し会)、教団理事会(2-3)	17	金	
3	金	教団・第76回年会開催(3-5日)	18	土	
4	土	//	19	日	礼拝式
5	日	合同礼拝式 YouTube 配信	20	月	
6	月		21	火	
7	火		22	水	
8	水	永松師引っ越し作業	23	木	祈祷会
9	木	祈祷会	24	金	
10	金		25	土	
11	土		26	日	礼拝式、教会学校進級進学式 9:30 a.m
12	日	礼拝式、教会役員会	27	月	
13	月		28	火	
14	火		29	水	
15	水		30	木	
			31	金	

教会月報

2023年3月
No.382

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

CONTACT(関係・接触)

3月お誕生・洗礼記念日の皆様、おめでとうございます。

編集後記

- ◇ 月報に永松先生の引退の証しを掲載する日が来るなんて、寂しく淋しいかぎりです。淑子先生との二人三脚で乗り越えてこられた47年間に、神様からの大きな労りと慰めと祝福がありますようにと編集委員一同お祈り申し上げます(永松先生の月報巻頭言は4月号が最終寄稿です)。
- ◇ 春は、何かと変化(チェンジ)や出発(スタート)の季節です。お互いの大きいことも小さいことも、イエス様のお守りをお祈りし合えたら幸いです。
- ◇ 山村兄の奨励(2月26日)要旨は次号に掲載予定です。
- ◇ 旧約聖書の詩編23篇と121篇を音読しつつの3月号でした。

その時、弟子たちがイエスの所に来て、「いったい誰が、天の国で一番偉いのでしょうか」と言った。そこで、イエスは一人の子供を呼び寄せ、彼らの中に立たせて。言われた。「はっきり言うておく。心を入れ替えて子供のようにならなければ、決して天の国に入ることはできない。自分を低くして、この子供のようになる人が、天の国で一番偉いのだ。わたしの名のためにこのような一人の子供を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。」

マタイ福音書 18章 1-5節

暦では立春も過ぎ、木々のつぼみは開花の準備をして春の季節を待ち受けているようです。今月末には桜も開花することでしょう。

さて、先日出張の折の事で、新幹線の待ち合わせをしていた時のことです。ベビーカーを引いた母親と3歳くらいの女兒と1歳くらいの男児の3人連れで椅子に腰かけていました。そこで、1歳くらいの子供が私に向かってほほ笑むのです。なんとも愛らしいしぐさでした。思わず私も手を振ってこたえました。そうしたら、次にベビーカーの陰に隠れて、いない・いないバーをするではありませんか!驚きつつ、わたしもそのしぐさに同調していました。年齢差約70歳の老人と遊んでくれたのです。(それもサングラスの眼鏡にひげを蓄えマスクをかけていた初対面の人)人間の字は、人と人の間と書きます。人は人とコミュニケーションを取り関係(CONTACT)を築きます。時間が来て別れ際に、近寄りハイタッチして別れを惜しみました。

イエス様は、幼子の良い点を認識され、弟子たちの一番を願う思考をたしなめられたのでした。

牧師 永松 清

永松先生、淑子先生、
ありがとうございました。



「すべてを主に
ささげた人生」
永松 清

わたしは1949年3月29日に生を受け、17歳(高校3年生)の春、大阪の教会に導かれました。それまでにキリスト教の通信講座を受講しており、紹介されたのがナザレン教団・阿倍野教会でありました。その年の12月25日(クリスマス)吉村隆男牧師より(5名)洗礼を受けました。以後、教会生活を始め、教会学校の教師の経験は貴重なものでした。やがて、24歳の社会人の時、川村哲嗣牧師の時代に神の召命を受け献身しました。卒業後、ナザレン教団に加入を認められ、初任地は北海道室蘭伝道所(4年間)・大阪の楠葉台教会(4年間)そして岡山教会(39年間)牧師として47年間、献身以来半世紀の時を刻みました。

すべてを捧げつくした人生でありました。それを陰で支えてくれたのが妻の淑子です。主の守りによって、息子のSも無事成長した事は神の憐れみであったと思います。

何も持たないで世に登場し、やがては何も持たないでこの世を去っていくのが人の常でしょう。しかし、人はその人生においてなにかの航跡を残します。わたしにとっては、全てを主に任せて生きたことであると思うのです。神様によって与えられたタラントンを自分のためだけではなく、神と人のために用いることができたのは最高の道であったと確信します。(写真は教会ホームページより)

何も持たないで世に登場し、やがては何も持たないでこの世を去っていくのが人の常でしょう。しかし、人はその人生においてなにかの航跡を残します。わたしにとっては、全てを主に任せて生きたことであると思うのです。神様によって与えられたタラントンを自分のためだけではなく、神と人のために用いることができたのは最高の道であったと確信します。(写真は教会ホームページより)

2.11 集会“世界の現状における非暴力の可能性”



今年も2.11集会がカトリック教会一階ホールを会場に、午後2時～4時行なわれ、ZOOM参加ほか約40名が集いました。ジャーナリストの守田敏也氏を講師に、ふだんのテレビや新聞などからは得にくいお話を学ぶことができました。

中でも印象的だったのは、今の日本国憲法の精神が薄らいでいて、国会議員も国民も再認識しなければならないことでした。「あたらしい憲法のはなし」～1947年当時の文部省が中学1年生社会科教科書に載せた憲法の解説～を読んでハッとさせられました。

“戦争の放棄”の項から抜粋・・・「そこでこんどの憲法では、日本の国が、けっして二度と戦争をしないように、二つのことをきめました。その一つは、兵隊も軍艦も飛行機も、およそ戦争をするためのものは、いっさいもたないということです。これからさき日本には、陸軍も海軍も空軍もないのです。これを戦力の放棄といいます。「放棄」とは「すててしまう」ということです。もう一つは、よその国と争いごとがおこったとき、けっして戦争によって、相手をまかして、じぶんのいいぶんをおそうとしないということをきめたのです。国の力で、相手をおどすようなことは、いっさいしないことにきめたのです。これを戦争の放棄というのです。」

守田氏が最後に言われた「平和の作り方は、目の前の人の不安や恐怖の話聞くことから始まる」は、クリスチャンとしても基本のキであると確認させられました。



昨年四月、主人の母を看取った後、自分に時間が出来たので何をしたい?と考えたときK姉の顔が浮かびました。ご病気の前のことです。一度ゆっくり証を聞きたいと伝えました。「あらまあ、私?」と笑っておられて、その時はコロナが収まったら会いましょうと約束しました。その願いは叶いませんでしたが、最後の電話は、そんな私への神様のプレゼントだったのかもしれない。

最後にK姉の声を聞いたのは、昨年末、送った手紙に返して下さった電話でした。闘病中も何度かやり取りがあり、毎日祈っていました。その日のK姉はとても明るく、嬉しいことがあって、それを伝えたくてたまらないという感じでした。ただ、声量がなく所々聞き取れなくて何処かの事だったのかわからないのですが、外出先の建物の中にピアノがあり弾けるかなと不安になったけど弾いてみたら弾くことができ、そしてたらの曲の中でとっても豊かな気持ちになった。「ほんとにね、こんな時間が自分にあるんだ。幸せだなあって思ってたね、神様に感謝したのよ!」と言葉にあふれてこぼれでる感情を伝えてくれました。礼拝堂のりんとした後ろ姿とか、お年寄りの送り迎えや病気の方への心使い、思い出すことはたくさんありますが、この日の喜びにあふれた声は「たとえ死の影の谷を歩むとも・・・あなたと私と共にいられる(詩編23:4)」ことの証のようで忘れられません。

聖書の言葉 旧約聖書 詩編23篇
『命のあるかぎり 恵と慈しみはいつもわたしを追う。
主の家にわたしは帰り 生涯、そこにとどまるであろう。』

RK姉妹の思い出

HK姉

私は教会に集うようになり十二年が経ちました。最初は何もわからず、礼拝に参加するのみでした。二年間位皆さまの名前も覚えられませんでした。K姉妹ははつきりと発言して教会のために花を植えたり草取りをしたり、清掃奉仕も参加されお手本でした。成人科では『牧師家庭に育ったのになかなかクリスチャンらしくない』と言われていました。でも婦人会長になりたての頃、『Hさん、花をいつも生けて下さりありがとうございます!会長としてもよく頑張っている!』と励まして下さりました。本当にやさしく気配りのできる姉妹でした。もう一度お会いしたかったです。車の免許証を返納された時、バスで来られて玄関で『くやしい!やっぱり車がまだまだ要る!』と泣いておられた時はちょっとびっぴりしましたが、不便を感じていらっしやっただけですね。お手伝いが出来ず申し訳ないです。何年か前、体調の変化の事を伺っていましたが、今回の病名には驚かされました。良く耐えられたと思います。これから、K姉妹のことを思い出してご奉仕を続けて行こうと思います。RK姉妹に感謝して!!

RK姉妹の思い出

ND姉



RK姉妹は2月13日に召されました。写真は2014年。

2023年度教会暦

- ・受難週 4月2日(日)～8日(土)
- ・受苦日 4月7日(金)
- ・イースター(復活祭) 4月9日(日)
- ・昇天日 5月18日(金)
- ・ペンテコステ(聖霊降臨日) 5月28日(日)
- ・アドベント① 12月3日(日)
- ・クリスマス(降誕日) 12月25日(日)